



2017年6月30日

Vol.101

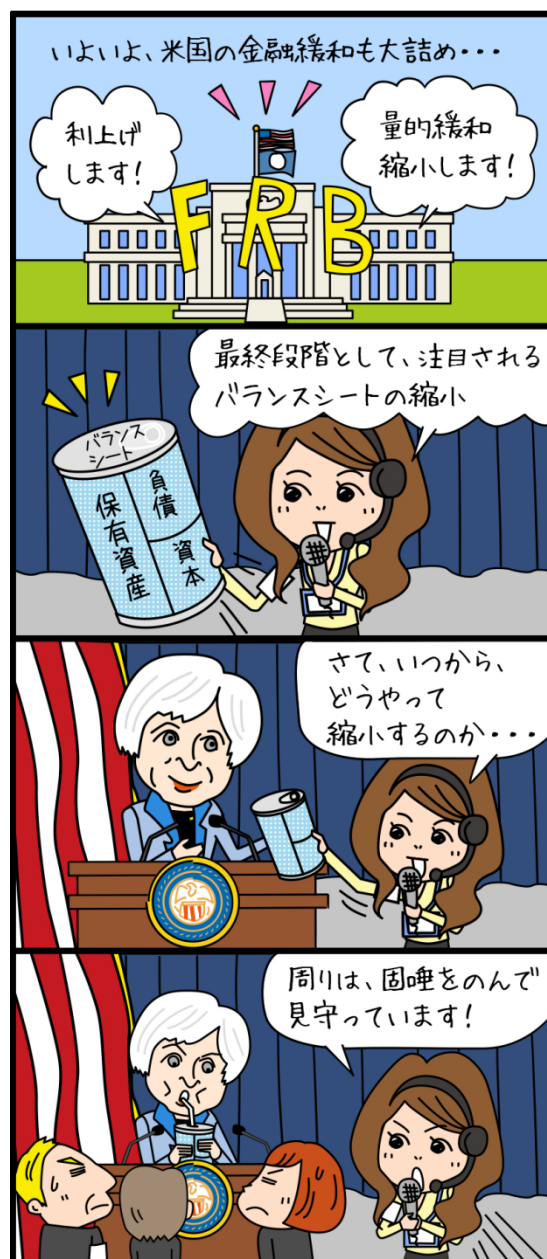
金融
政策

バランスシート縮小でどうなる？

最近、「バランスシート縮小」という言葉をよく聞きませんか？

これまで米連邦準備制度理事会(FRB)は、景気回復の度合いに合わせて金融政策を段階的に変化させてきましたが、間もなく新たな転換点を迎えそうです。

そこで今回は、変化のポイントとなる「バランスシート縮小」について押さえていただきたいと思います。



□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



バランスシート(貸借対照表)とは、財務状態を表わす財務諸表のひとつです。「保有資産」と「負債」「資本」の合計が均衡(バランス)するように構成されています。

米国では、2008年の金融危機をきっかけとした景気悪化を受け、FRBが市中に出回るお金の量を増やす量的緩和政策として、米国債や住宅ローン担保証券(MBS)の買い入れを段階的に行なってきました。その結果、FRBの保有資産は、2007年末の7,500億ドル程度から現時点では4.5兆ドル程度にまで増加、つまりバランスシートが拡大しました。しかし、米国経済に明るさがみられるようになったことから、量的緩和政策を徐々に縮小してきています。

金融政策の出口戦略の第1段階として、量的緩和政策の第3弾(QE3)で実施した長期国債やMBSの買い入れを、2014年1月から徐々に減らしていきました。この量的緩和政策の縮小のことをテーパリングといいます。2014年10月以降は新たな買い入れは行なわず、償還を迎えた保有債券の償還で得た資金を再び債券に投資することで、保有資産の残高を4.5兆ドル程度に保っていました。そして、第2段階としては利上げです。量的緩和政策は、実質ゼロ金利の環境においては新たな金融政策の手段として重要な役割を果たしてきましたが、FRBは2015年12月より利上げに踏み切り、2017年6月の4回目の利上げによってフェデラル・ファンドレートは、1.00～1.25%になりました。第3段階(最終段階)はバランスシートの縮小、つまり保有債券を減らすことです。

2017年5月の連邦公開市場委員会(FOMC)では、償還を迎える保有債券の再投資の停止がバランスシート縮小の方法として示されました。バランスシート縮小は、市場に大きな影響を及ぼすことが予想され、いつから、どのような方法で縮小していくかなど、実施方法の事前発表によって市場の動揺を抑えることが求められます。現段階では、再投資の停止に限度額を設け、段階的にバランスシート縮小を進めると言われておりますが、今後のFRBの発表には注視が必要です。

金融政策の正常化に向けた歩みを着実に進めるとともに、将来に向けて取り得る金融政策の幅を拡げる意味でも、バランスシート縮小は避けては通れない道です。

今後、金融政策において日欧の先を行く米国の金融政策から目が離せません。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00